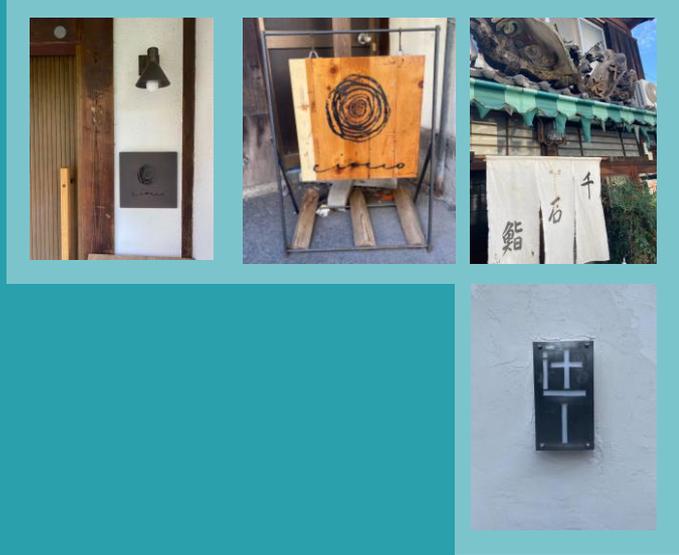




令和5年度
「きらッと大津景観広告賞」
「古都大津20周年記念賞」



第21回
「きらッと大津景観絵画展」



目次

市長あいさつ 大津市長 佐藤 健司	1
-------------------	---

【きらッと大津景観広告賞・古都大津20周年記念賞】

選考を終えて 選考委員長 石川 亮	3
◇滋賀県広告美術協同組合理事長賞	8
◇きらッと賞	9
◇古都大津20周年記念賞	10

【きらッと大津景観絵画展】

◇大津市長賞	13
◇選考委員長賞	19
◇大津市景観審議会賞	20
◇優秀賞	21

優良屋外広告物顕彰制度及びきらッと大津景観絵画展

市長あいさつ

大津市長 佐藤 健司



大津市は、天智天皇が遷都した近江大津宮をはじめとし、数多くの歴史的資産と比叡山や音羽山など周辺の自然環境が一体をなして、特色ある歴史的風土を形成してきました。国民共有の貴重な財産ともいえる、本市の歴史的風土を保存するため、平成15年10月に全国で10番目の古都に指定され、本年度で20周年を迎えました。

古都に指定されてからの20年間は、「古都大津の風格ある景観をつくる基本条例」に基づき、市民の皆様や事業者の方々の御協力のもと、古都にふさわしい景観づくりを進めてまいりました。

この取組の一環として、大津のまちなみにふさわしい屋外広告物の保全と創造を図ることを目的に、平成22年に「優良屋外広告物顕彰制度」を設け、以来3年に1度、まちなみに調和した優れたデザインの広告物を表彰しているところです。

5回目の開催となる本年度は、歴史文化が色濃く残る園城寺周辺を対象地域として、成安造形大学の御協力のもと、古都大津にふさわしい屋外広告物を選定していただきました。

また、「きらッと大津景観絵画展」につきましては、大津の景観を自由に描いていただくことで、古都大津の景観の美しさや理想とされる姿について、語らい、考えていただく機会になるようにという願いから、古都指定を受けた平成15年から毎年開催しており、今年で21回目を迎えます。本年度の応募数は、1027点と過去最多となり、絵画展として市民の皆様に着目してきたものと実感しております。

応募いただいた作品は、大津の景観への思いが伝わる、心のこもったものばかりであり、大津に対する熱い愛情、希望、夢を強く感じました。

今後も、市民の皆様と協働して、美しい古都大津の景観を守り育て、皆様が描かれた絵画のように、夢があふれるまち大津の実現を目指してまいります。

最後になりましたが、御応募いただいた皆様、選考委員の皆様、御協力いただいた成安造形大学関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

きらッと大津景観広告賞・古都大津20周年記念賞

選考を終えて

選考委員長 石川 亮
(美術家・成安造形大学芸術学部准教授)



令和5年度のきらッと大津景観広告賞は、学生が選ぶきらッと賞1点を含めて3点が受賞されました。

選定地域の対象となった長等地区は大津市中心市街地の西側に位置し、大津を代表する名刹「三井寺（長等山園城寺）」の門前町として古くから栄えてきた町です。少し深入りすると、大津の町を東西に通じる三本の道（北から浜通、中町通、京町通）はいずれも三井寺に関わりがある道として伝えられています。浜通は三井寺総門へ通じる道（現在は疎水で分断）、中町通は長等神社から観音堂へ、京町通は小関越へと通じており、三井寺の門前に位置する長等地区は参拝、巡礼、商いなどで賑わっていたことが想像できます。

主な対象エリアとして琵琶湖疎水より南側、京阪石坂線のびわ湖浜大津駅を介して京津線に囲まれた地域、南は県庁前通りまでをターゲットとしました。このエリアは電車道に沿う様に住宅地と商業施設が棲み分けながらも、落ち着いた雰囲気を感じられます。近年は古民家再生事業により、旅籠を彷彿するゆったりと泊まれる宿泊施設として生まれ変わった建物もあります。それは大津にあるべき良好な景観を作っていると言えます。長等商店街周辺では商店街の顔として親しまれてきたお店が閉まるなど寂しい一面もありますが、元々あった建物の魅力を活かしつつ新たなお店も生まれ、同時に新たなワクワク感も生まれています。少し北へ入ると以前、花街であった面影も残しつつ、新旧が調和しながらも大津らしさが蘇ってきた地域と言えるでしょう。

きらッと大津景観広告賞のきらッと賞を受賞した広告物は、戦前に創業した寿司屋さんの看板が選定されました。学生によって選ばれたその理由に、創業当初から引き継がれてきた看板は大津の歴史とともに歩んでいるような雰囲気があり、その深み重みを感じることからこれからも大津に根付いて欲しい思いが込められています。この看板が示すようにこの地域には古くから上がっている木製の軒先看板や工夫を凝らした広告物、漆喰壁にさらっと描かれたものなど、様々な様式、素材、大きさ、時期に作られたものを見ることができました。

推薦された広告物を見ていると、ある共通点に気づきました。それは比較的小さな看板があげられます。もはやこれは表札ではなかろうか？というものもありましたが、暖簾などとの組合せや店先に置かれたものにさりげなく屋号を記すなど工夫に満ちたものが推薦されていました。これらは大津長等の街並みを人が歩く目線で見た時にちょうど良い大きさと言えるでしょう。大きく派手に見せることが人々の目線に触れやすいということだけではなく「気づかせる」ことも景観広告物の重要なポイントと言えるかもしれません。

この他、きらッと大津景観広告賞滋賀県広告美術協同組合理事長賞、古都大津 20 周年記念賞に関しても同様、屋号や店名を強くアピールするものではありませんでした。もしかすると気づかず通り過ぎてしまうかもしれないような大きさ、位置に設置してあるものでした。前者は天然素材で製作され、人の筆跡で書いたようなロゴマークはレーザー加工が施されており、今日の技術と天然素材を組み合わせていました。後者は町屋をリノベーションした店舗の壁面に何か記号を示すようなものでした。よく見ると店名が刻まれており、夜には裏から光が当たって形が浮かび上がる仕掛けは、この地域の歴史的景観にリスペクトする気持ちは感じられるものでした。いずれもこの街に寄り添うような看板、景観広告物と言えるのではないのでしょうか。

さて、この選定をはじめ今年で 5 回目 15 年を迎えますが、何かが変わってきたように感じます。今から思うと始めた当初は広告物、看板が景観に及ぼす意識は低かったように思います。見る側はどこか他人事のようにも思え、広告を出す方はいかにして人々の目に入りアピールできるかを重視していたように思います。今回の長等地区では学生の選んだもの以外は比較的新しいものが選出されましたが、いずれにしても華美なものではなく景観に溶け込みつつも、しっかり作り込まれていることが特徴です。見る側も店主の思いや考えを想像でき、出す側も街への思いや商いへの意気込みなど、双方が看板、景観広告物を通して対話しているように思えました。「見る、見られる」お互いの思いのバランスが釣り合っこそ良好な景観づくりへつながるのだと思います。景観づくりは我々一人ひとりの意識の持ち様にかかっていると改めて感じました。

令和5年度 きらッと大津景観広告賞・古都大津20周年記念賞

本市では、屋外広告物を景観形成の大きな要素として考え、まちの景観づくりの方針や周辺環境に調和した屋外広告物の掲出による景観の保全と形成を進めています。そこで、先導的な役割を担う良好な広告物を選定、顕彰することで、「良好な広告物による良好な景観づくり」を目指したいと考え、まちなみに調和した優れたデザインの広告物を選考し「きらッと大津景観広告賞」として表彰しています。

さらに、今回は大津市の古都指定20周年を記念して、古都大津の歴史的景観にふさわしい広告物を表彰する「古都大津20周年記念賞」を特別に設けて、開催しました。

対象地域

園城寺歴史的風土特別保存地区周辺
(大門通、長等、浜大津)



※歴史的風土特別保存地区

古都保存法により古都として指定されている都市の歴史的風土を形成する特に重要な地区として指定するもので、本市では、①延暦寺横川地区 ②延暦寺飯室谷地区 ③延暦寺東塔・西塔地区 ④西教寺地区 ⑤日吉大社地区 ⑥崇福寺跡地区 ⑦近江神宮地区 ⑧園城寺地区 ⑨石山寺地区の9地区が指定されています。

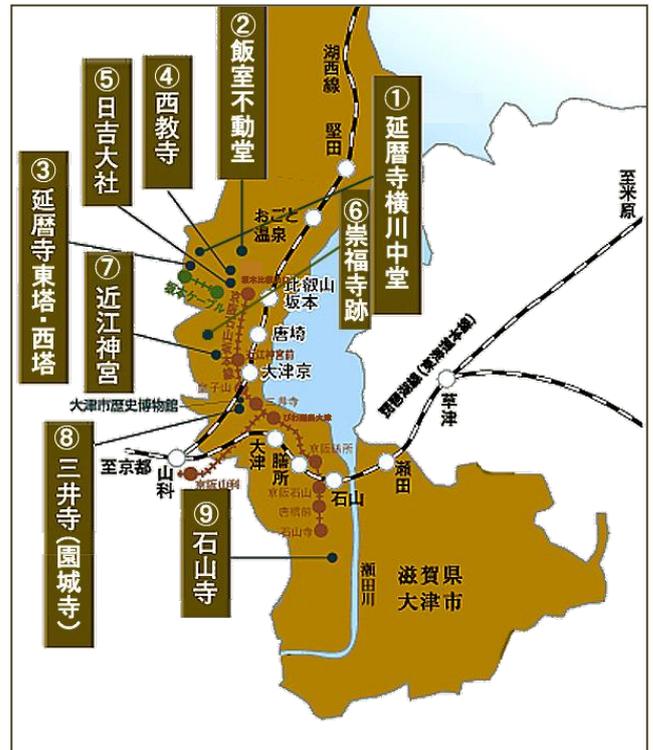
○大津市の古都指定について

大津市は、天智天皇が遷都した近江大津宮のほか、平安仏教・鎌倉新仏教草創期の文化の中心地として、さらには奈良時代から平安時代にかけての近江国府の所在地、鎌倉・室町・戦国・江戸の各時代における軍事上の重要拠点あるいは交通の要衝として繁栄し、数多くの歴史上重要な文化的資産を有しています。

これらの歴史的資産の大半は、比叡山から長等山、音羽山、さらに伽藍山へと西方に連なる山並みの恵まれた自然的環境と一体をなして、特色のある歴史的風土を形成しています。

このように本市は歴史的風土を形成してきたことから、平成15年10月に、古都保存法に基づく全国10番目の「古都」に指定されました。

今回の対象地域は、大津市が本年10月に、古都指定を受けて20周年を迎えることから、古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区*周辺を対象とし、歴史的な街並みの残る地域としました。





ciocco

所在地：長等2丁目3-9



店舗は、お寺の門をくぐった先にあり、隠れ家のようにになっています。門の前には、木で作られたシンプルな看板があり、お寺の雰囲気に取り添って落ち着いた印象ですが、看板の足元には重しとして薪が置かれており、薪火料理を提供しているこの店舗の特徴を表すなど、細部に店舗ならではの特徴が表れています。

店舗の壁面に貼り付けられた看板は、素材感もよく、店舗の雰囲気にあった、落ち着いた印象を与えます。看板や、木で作られた扉、店舗を囲むオリーブや蔦などの自然、そして看板を照らすライトなど、全てが一体となって調和しており、シンプルで周囲の歴史性を損なわない、控えめなデザインの看板は、まちなみと調和した素敵な景観を演出していると言えます。





千石鮎

所在地：長等3丁目3-42



大学生によるワークショップを開催し、実際にまちを歩いて、デザインの光る看板を探し出し、「きらッと賞」として学生たちが選んだ作品です。

戦前に創業した、仕出し、持ち帰りが中心の寿司屋。その歴史を感じさせる、風情のある店舗です。独特な形をした木製の看板に屋号が貼り付けられており、店舗入り口ののれんと一体をなして魅力ある空間を演出しています。独特な看板ではあるものの、店舗や周辺景観にも馴染んでおり、よりこの地域の歴史の深みを増すようなデザインになっています。

創業当初から引き継がれてきた看板は、大津の歴史とともに歩んでいるような雰囲気があり、歴史の深み、重みを感じることができるこの看板が、これからも大津に根付いてほしいという願いから、大学生によって選ばれました。





四ツ辻の辻一

所在地：長等3丁目3-12



町家をリノベーションした店舗の壁面に、シンプルな看板が設置されています。大きすぎない看板に、直線のみで店舗名が書かれており、見る人に考えさせるようなデザインです。看板の後ろにはライトが設置されており、夜になるとふわっと浮かびあがるような主張をしすぎないデザインが、風格を添えています。建物そのものも、町家の雰囲気に合わせてリノベーションされており、看板や、店舗周囲の自然、店舗を優しく照らすライト、全てが一体となって、町家の歴史に深みをもたせています。

看板そのものは近代的でありつつも、華美になりすぎず、この地域の歴史へのリスペクトを感じさせるこの看板は、歴史的景観や建物そのものの歴史性を損なわない、歴史を伝える一助となっています。



きらッと賞を選定した大学生によるワークショップ

令和5年9月27日（水）、優良屋外広告物顕彰制度の一環として、成安造形大学の学生による優良屋外広告物の調査を行いました。長等地域周辺の歴史や、屋外広告物についての講習を受講した後、現地調査を行いました。その後、現地調査で見つけた優れた広告物の写真を持ち寄って、ワークショップを行い、最も優れたデザインの広告物1点を大学生の視点で「きらッと賞」として選出しました。



■日時:令和5年9月27日(水)

9時30分～16時30分

■場所:長等支所

■内容:フィールドワーク、
講習会

●講習会

屋外広告物について

滋賀県広告美術協同組合

和田 光平 理事長

●協力

成安造形大学